

# 平和の使者



## ご挨拶

エール学園理事長  
は せがわ けいいち  
長谷川 恵一



皆様お元気ですか。この2年間はコロナ禍にあって、過ごしくにくい環境にありました。校友の皆様が活躍している状況を聞くにつけ、もっと校友間の情報を共有できればうれしいと思っております。そこで今回校友誌を発行するにあたりエール学園の55年間にわたる状況を振り返ってみたいと思います。

エール学園は1967年にスタートしました。最初、難波高等経理学院を創設し、翌年に難波予備校を、その翌年に難波電気工学院、そして1970年に日本写植専門学校をつくりました。この間に10万人を超える学生を世に送り出しました。今も時々会社訪問をすると「私は御校の卒業生です」と言われ、うれしくなります。

1976年に第一世代のミッションを作成しました。経営理念は「誠実・情熱・創造」です。教育理念は「哲学者たれ」「自己に厳しく自己をクリエイトできる人材たれ」「大きな視野で世界に羽ばたける人材たれ」でした。1994年〜2005年の第二世代は「互いに高めあえる関係をつくる」。2006年〜2016年の第三世代のミッションとして「お互いが共に生かしたい、高めあって生きていけるような共生共創社会を創造できる人材を育成することを使命とする」。2017年から第四世代のミッションは「国境を

越えて学ぶ人々が夢を実現し、平和の使者となり、グローバル人材を育成する」とした。

エール学園のこの55年間は、前半は日本人の夢の実現のために凄まじい大学合格率や100%の就職率という実績を続けてきました。後半は国際化を推進し、留学生の育成支援を続けてきました。そのため現在では1500人の留学生ばかりの学校となっております。留学生の夢の実現と日本人と留学生が共生する地域の実現に注力してきました。留学生の夢の実現のために、希望の大学に合格させることや就職率を100%にする実績を実現しています。

エールがある難波中地域は30年前は外国人である留学生と地域住民とのトラブルが多く発生していましたが、20年前ぐらいから留学生と教職員が地域の清掃活動をするようになって留学生が地域住民から感謝される存在となり、外国人と日本人が共生する地区へと変貌していきました。第三世代に掲げた難波中地区はまさに「共生共創社会」が実現していると思います。多くの先輩たちの努力によってよい資産が蓄積され現在の留学生にとって幸せな環境がつけられています。

エール学園が50年を迎えた時、次の50年をどんな学校にするかという方向性を明示しました。

### 卒業・修了生との 生涯にわたるネットワーク構築を

エール学園校長 萩原 大作 はぎはら だいさく

2017年〜2027年は「専門職大学となり、世界のトップレベルの大学と連携」。

2027年〜2037年は「日本語ネット教育・ネット試験事業の研究を深め世界一となる」。

2037年〜2047年は「エールのメンタリングの研究を深め世界に普及」。

2047年〜2057年は「アジア・アフリカ・ヨーロッパ・北アメリカ・南アメリカで日本語分野・メンタリング分野・実践ビジネス分野でネットとリアルを大学をつくる」。

2037年にメンタリングという言葉が出てきていますが、支援する行為を意味します。長年エールは「支援する人材」の育成に注力してきましたので、そこから生まれてきた言葉です。

2022年から久しぶりに日本人学生も入学します。そして校内でも日本人と外国人の共生を目指すと共に、2024年からは理系のコース設置し、2027年から専門職大学づくりを目指します。

エール学園は今後様々な挑戦を続け、グローバルな世界で留学生が「平和の使者」となってくれることに今後も挑戦を続けていきます。

卒業生、修了生の皆さん、皆さんの夢は実現しましたか。または実現の過程にあるでしょうか。学生時代に目指していた夢の実現と現在の夢は変化しているかも知れません。

時代は刻々と変化しています。現在は経済のみならず、政治、国と国との関係等々、変化の過程にあります。我々はその中で、その背景の元で生きていますので、我々自身の変化はあるべき将来のための変化だと考えています。皆さんも変化を恐れず、「なりたい自分」を追求していかけてください。

エール学園は今年で創立55年目を迎えます。現在まで様々な変遷を経てきました。そんな中で学園のミッション「なりたい自分」「つくす自分」を時代に合わせた形で実践してきました。

現在は第4次産業革命が進行中です。「AI」、「IoT」、「ロボティクス」等、新しいデジタル技術が我々の生活の中に当たり前のように入ってきています。さらに第5次産業革命へと進み、デジタル技術と他分野の技術との融合で今までにない時代を生み出そうとしています。

エール学園でもすでにDX（デジタル・トランスフォーメーション）が人口、教育の中心、出口の部分で進行中です。デ

ジタル技術は教育の世界も変えて行くことになるでしょう。

このように人と世界が変化して行く中で、私はもう一つ大事なことがあると考えています。それは人と人との繋がり、ネットワークです。

これほどのデジタル技術の発展する前には、人が一生で築けるネットワークは、限られたものでした。それだけに、価値ある「人と人との繋がり」は、政治、行政、経済、教育等の分野で重要な役割を果たしていました。

現在に目を向けると、ネットワークを構築できるデジタルツールが多くあります。距離を超えて、ネットワークを構築できる通信ツールです。我々はこうしたツールを毎日活用し、日々ネットワークを更新、強化し続けているとも言えます。

これらネットワークが、政治的変革につながった例もあります。それだけに活用を間違えなければ、価値を生み出すネットワークを構築することができると言えます。

学園は今後、今まで以上に卒業、修了生の皆さんとのネットワークを強化していきたいと考えています。皆さんの生涯教育、キャリア開発にも学園が強く関与し、人生を共に歩みたいと願っています。

学園のミッション「つくす自分」を学園が実践することで、皆さんの「なりたい自分」に寄り添えるネットワーク、皆さん方それぞれが同じ価値を共有できるネットワーク、将来的に価値を生み出すであろうネットワークの構築ができればと考えます。

学園と皆さん方、皆さん方と皆さん方、学園または皆さん方と将来つながる方々をつなぐことで新しい価値を生み出したいと願っている訳です。

エール学園で共に過ごした時間を思い出してください。良い思い出ばかりではないかもしれませんが、皆さん方の人生を形作っている1ページではあり続けます。新しい時代に向かって共に新たな1ページを作り続けて行くこうではありませんか。



MESSAGE 03

日本語メンタリング室  
専門職主務 日本語講師  
坂口敦子

コロナ禍の難しい状況のなかでも、勉強を続けてくれたことに感謝

私は1990年からエール学園に日本語講師として勤務し、その後、講師兼職員として日本語教育に携わってきました。日本語には「あまいな表現」があります。留学生には分かりにくく、最初の頃は誤解を招いたことや様々な文化や習慣の違いでシヨックを受けたこともありましたが、さすが多国籍の学生との触れ合いで違う視点でハッとさせられたり、感銘を受けたりもしました。学生と接する時はいつもエネルギーをもらいます。教える立場でありながら、自分も留学した

感覚になり、社員時代よりも話題が増えました。コロナ禍で世界中が大変な時期になり、授業の形式もオンラインに変わったりしています。今までの対面授業の臨場感がなくなり、距離感が縮まらないことや、コミュニケーションを取ることに難しさを感じています。今年卒業する学生の中に日本に入学しただけで、オンライン授業しか受けていない学生もいます。誰も経験したことのないことだからこそ、学生たちがそれを糧にし、次のステップに進んでほしいと願っています。



MESSAGE 02

キャリア教育事業本部  
キャリア支援室長  
にしむら たこうじ  
西村康司

企業と留学生が互いに喜びを分かち合える環境をこれからも

エール学園で、留学生の就職支援を担当することになったのは2009年。キャリアコンサルタントとしての活動のなかで外国人をサポートするのは初めてでした。日本のリクルートシステムは独特です。優秀な留学生でも戸惑ってしまう。一方の企業側はそうした戸惑いがなかなか理解できません。互いの文化の違いを乗り越えることが大きな課題でした。そこで取り組んだのが長期のインターンシップ。2か月、3か月と仕事をすることで、企業に留学生の人となりを深く知ってもらおうと

うと考えました。受け入れ先企業の開拓の一環として、企業と留学生との交流会も始めました。それから十数年がたち、今ではインターンから就職に至るケースはたくさん生まれています。当初30社ほどの参加だった交流会は、250社、他校の留学生も参加する大イベントになりました。そして、社会で活躍する卒業生たちとのネットワークも広がっています。昨年は新たに、外国人経営者の会「グローバル・プレジデント・ミーティング」が発足。卒業後も多様な交流を行っています。



MESSAGE 01

進学指導担当  
すが たかし  
菅高志

持っている力を最大限に生かせる場所へとサポートしていきたい！

エール学園の留学生からは、立身出世への思いを感じます。「いい大学、いい会社に入ってたくさんお金を稼ぎたい」って堂々と、将来の目標を言うんです。そんなたくましい姿に、いつも刺激をもらっています。私が留学生の担当になりたての頃、自身の学力に比べて、下位のランクの大学に進む学生がいきました。理由を聞くと「先輩がいるから」。ランクがすべてではありません。でも、いい大学、いい会社に入ってという目標を思うと、もったいなく感じました。難易度

や試験科目など、日本の大学に関する情報が留学生にしっかり伝わってなかったんです。その経験から、情報を集めて分析し、学生の力を最大限に生かす進路指導を心掛けるようになりました。大学に合格してからも、定期的に連絡をくれる学生はたくさんいます。これまで女子学生に彼氏を紹介されたことが3回ありました(笑)。学園に彼氏を連れてきて、「先生、どう思いますか？」って聞かれたり。留学生の皆さんと、そんな関係を築けて、とてもうれしく思っています。

校友会誌「平和の使者」からのお知らせ

2022年よりエール学園の在校生、卒業生に向けて会報「平和の使者」を年2回(4月・10月予定)発行していくこととなりました。会報の発行やホームページ、Facebookなどの運営は学園のグループ会社の株式会社ATLAS EHLEが運営する制作委員会が行います。今回は創刊準備号ということで、今年度卒業される方にもぜひ「平和の使者」を知っていただきたく準備致しました。ホームページは定期的に更新して、会誌では掲載しきれなかったインタビューの全貌、新たなイベント情報やグループ会社の動向などをお知らせできればと思います。

ゆくゆくは卒業生の方の経営しているお店や会社の情報なども掲載させていただき、多くの方々が交流し、つながっていけるような情報を発信していく校友会誌「平和の使者」にしたいと思っています。「平和の使者」をより良い情報の発信源として作成いたします。2022年もコロナ禍に負けず、頑張りましょう！

今後の情報をご希望の方は、下記のサイトから校友会に登録してください。

校友会のページには「Facebook」「LINE」「WeChat」からもアクセスできます。



校友会ホームページ



facebook



LINE



WeChat

学校法人エール学園グループ

- エールチャイナ(中国・上海)
- TERA 外語ビジネス学院
- エイムハイグローバル(韓国・ソウル)
- EN 日本語学校
- エールベトナム(ベトナム・ハノイ)
- SEIKO 外語学園
- NPO 法人国際メンターシップ協会
- 株式会社 ATLAS EHLE

編集後記

今回は2022年3月に卒業される皆さんに合わせて、準備号を作成しました。皆さんもこれから新しい道に進み、活躍されることでしょう。そういった報告を校友会を通して連絡してください。今後の皆さんの活躍を楽しみにしています!!

編集・発行 学校法人エール学園校友会  
「平和の使者」制作委員会  
発行所 株式会社 ATLAS EHLE  
大阪市浪速区難波中3-13-1  
TEL06-6647-0028  
デザイン 株式会社藤 workspace  
印刷 南海印刷株式会社